



2025年度 第1四半期決算について

2025年 8月 6日

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

※ 本資料中の「E」は記載の数値が計画または業績予想であることを表しています。

1. 2025年度 第1四半期 連結決算概況
2. トピックス
3. Appendix

2025年度 第1四半期 連結決算概況

2025年度 第1四半期 連結決算の状況



- 対前年増収・減益
- 営業収益は過去最高を更新

連結決算状況

● 営業収益	:	3兆 2,620億円	(対前年	+ 220億円〔+0.7%〕)
● EBITDA ^{※1}	:	8,014億円	(対前年	▲ 139億円〔▲1.7%〕)
● 営業利益	:	4,052億円	(対前年	▲ 306億円〔▲7.0%〕)
● 当期利益 ^{※2}	:	2,597億円	(対前年	▲ 144億円〔▲5.3%〕)

※1 EBITDA及びその内訳の減価償却費について、使用権資産に係る減価償却費を全て除いております。

※2 当期利益は、当社に帰属する当期利益（非支配持分帰属分控除後）を記載しております。

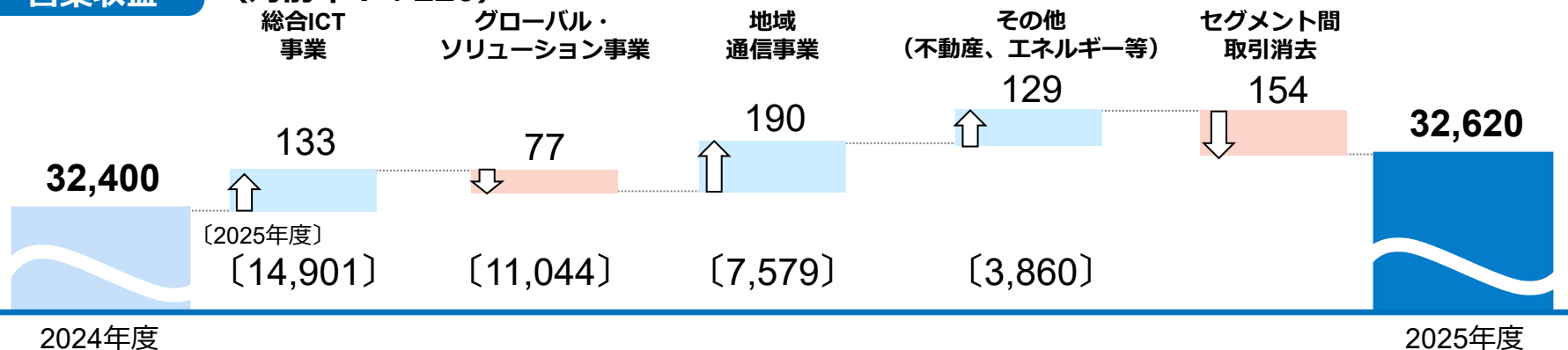
2025年度 第1四半期 セグメント別の状況



営業収益

(対前年 : +220)

(単位 : 億円)

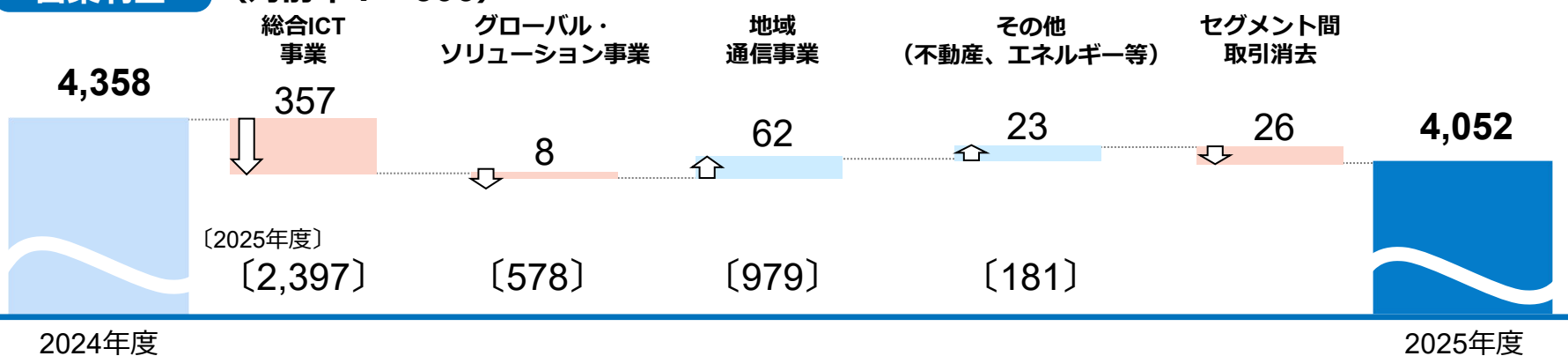


2024年度

2025年度

営業利益

(対前年 : ▲306)



2024年度

2025年度

トピックス

①アップグレード版 純国産LLM 「tsuzumi 2」



- NTT版LLMであるtsuzumiのアップグレード版を10月にリリース予定
- 日本語性能において同サイズLLMにて世界トップクラス

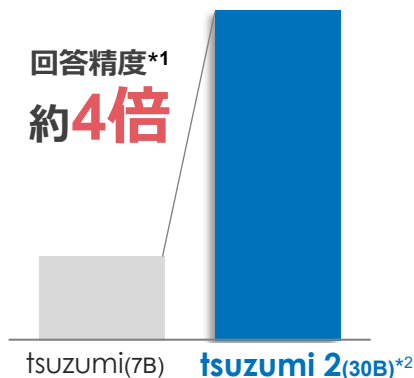
強化した文脈処理・文意理解の性能比較

企業のお客様ニーズにこたえる
複雑な文脈・文意理解力が進化

コスト効率と大幅な性能向上を実現した
バランスに優れた1GPU動作モデル

機密性の高い情報にも対応
NTTがゼロから開発した純国産モデル

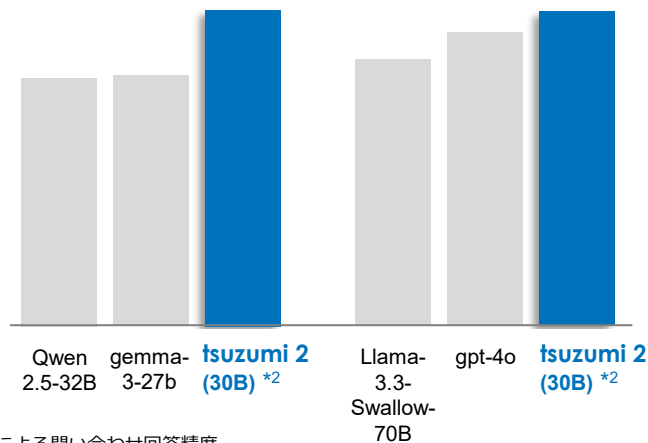
RAGを用いた業務処理の実例
における前モデルとの比較



一般的なベンチマーク*3での他モデル比較

同サイズ帯
トップ性能

大規模サイズ帯
同等以上



*1 : NTT社内業務におけるトライアル案件のRAGによる問い合わせ回答精度

*2 : tsuzumi 2は開発中のものを利用

*3 : llm-jp-evalにおける日本語性能評価、文脈・文意理解該当する指標の評価結果

② 「NTT DC REIT」のシンガポール取引所上場

- NTTデータグループの連結子会社であるNTT DC REIT Managerが運用を担当する不動産投資信託「NTT DC REIT」が、2025年7月14日にシンガポール証券取引所に上場
- 6つのデータセンター(DC)資産の本REITへの譲渡(総額2,295億円※)を通じ、DC投資の回収サイクルを早期化し、投資資金創出や財務健全性の維持を図りつつ、DC事業のさらなる成長と企業価値の最大化をめざす

※1,500百万米ドル（1ドル＝153円で換算）

NTT DC REITに組み入れた6つの データセンター（総電力容量：約90MW）

VIE1（オーストリア）



SG1（シンガポール）



VA2（アメリカ）



CA1～CA3（アメリカ）



③大阪・関西万博でのIOWNユースケース



- NTTパビリオンデーにおいて、IOWN APNを活用し、日台間双方向伝送によるリアルタイム共演を実現した、超歌舞伎〈CHO-KABUKI〉 Powered by IOWN『今昔饗宴千本桜 Expo2025 ver.』を開催
- NTTパビリオンでは、IOWN 2.0を活用した電力消費1/8のコンピュータを実現。2026年度には、万博版からさらに通信容量を2倍に向上させた商用版の提供をめざす

超歌舞伎〈CHO-KABUKI〉 Powered by IOWN 『今昔饗宴千本桜 Expo2025 ver.』

2025年5月24・25日 NTTパビリオンデー



IOWN APN

大阪市
(万博会場)

全世界同時配信



台湾・台北市
(中華電信総合活動センター)

距離 : 3,000km超
回線速度 : 100Gbps
遅延時間 : 往復40msec



NTTパビリオンでの IOWN光コンピューティング※活用



④ 今後の固定電話の提供に関する方針の公表について NTT (メタルから光/モバイルを活用した固定電話への移行)

- NTT東西のメタル設備を利用した固定電話について、今後の設備の老朽化・コスト効率の悪化を踏まえ、2035年までを目途に、光やモバイルを活用したサービスへと段階的に移行し、これまでと同様、固定電話をご利用いただける環境を整備していく
- 代替サービスへの移行にあたっては、ご利用中のお客様にご不便をおかけしないよう、十分な周知期間や移行期間を設けて実施していく考えであり、基本的な方針等については、9月下旬を目途にNTT東西より公表予定

<9月下旬に公表予定の内容>

- メタルから光/モバイルを活用した固定電話への移行の考え方・スケジュールについて
- 消費者保護および円滑な移行に向けた取り組みについて 等

⑤中期経営戦略の進捗について



～ 2025年5月からの進捗 ～

IOWNによる 新たな価値創造

- ・大阪・関西万博において、IOWN APNを活用したリモート農業技術を実演(NTT・5月)
- ・IOWN APNを用いた遠隔データセンター間の分散処理による再エネ有効活用を実証(NTT、NTT西・6月)
- ・IOWN APNを用いて新たな観戦体験をお届けする「IGアリーナ」を愛知県に開業(NTTドコモ・7月)

データ・ドリブンによる 新たな価値創造

- ・豪雨時の道路寸断リスクを可視化する被災予測技術確立(NTT・5月)
- ・マーケティング業務を最大6割削減する新たなAIエージェントサービスを提供開始(NTTデータ・5月)
- ・SBIホールディングスとの資本業務提携契約の締結、住信SBIネット銀行に対する株式公開買付け・資本業務提携契約の締結(NTT、NTTドコモ・5月)
- ・ドラッグラグ・ロス解消に向け治験・臨床試験のデジタル化推進のグループ連携体制を構築(NTT・5月)
- ・AI-Centric ICTプラットフォームの実現に向けゲットワークスと戦略的業務提携(NTTドコモビジネス・6月)
- ・マーケティングソリューション領域での事業拡大に向けたCARTA HDに対する株式公開買付け、CARTA HD・電通グループとの業務資本提携契約の締結(NTTドコモ・6月)
- ・連鎖型AIエージェントによる流通SCM最適化に向けRetail AIと「Retail-CIX」を設立(NTT AI-CIX・7月)

循環型社会の実現

- ・蓄電所事業を横断的にサポート「蓄電所構築・運用おまかせサービス」の開始(NTTアノードエナジー・5月)

事業基盤の更なる強靱化

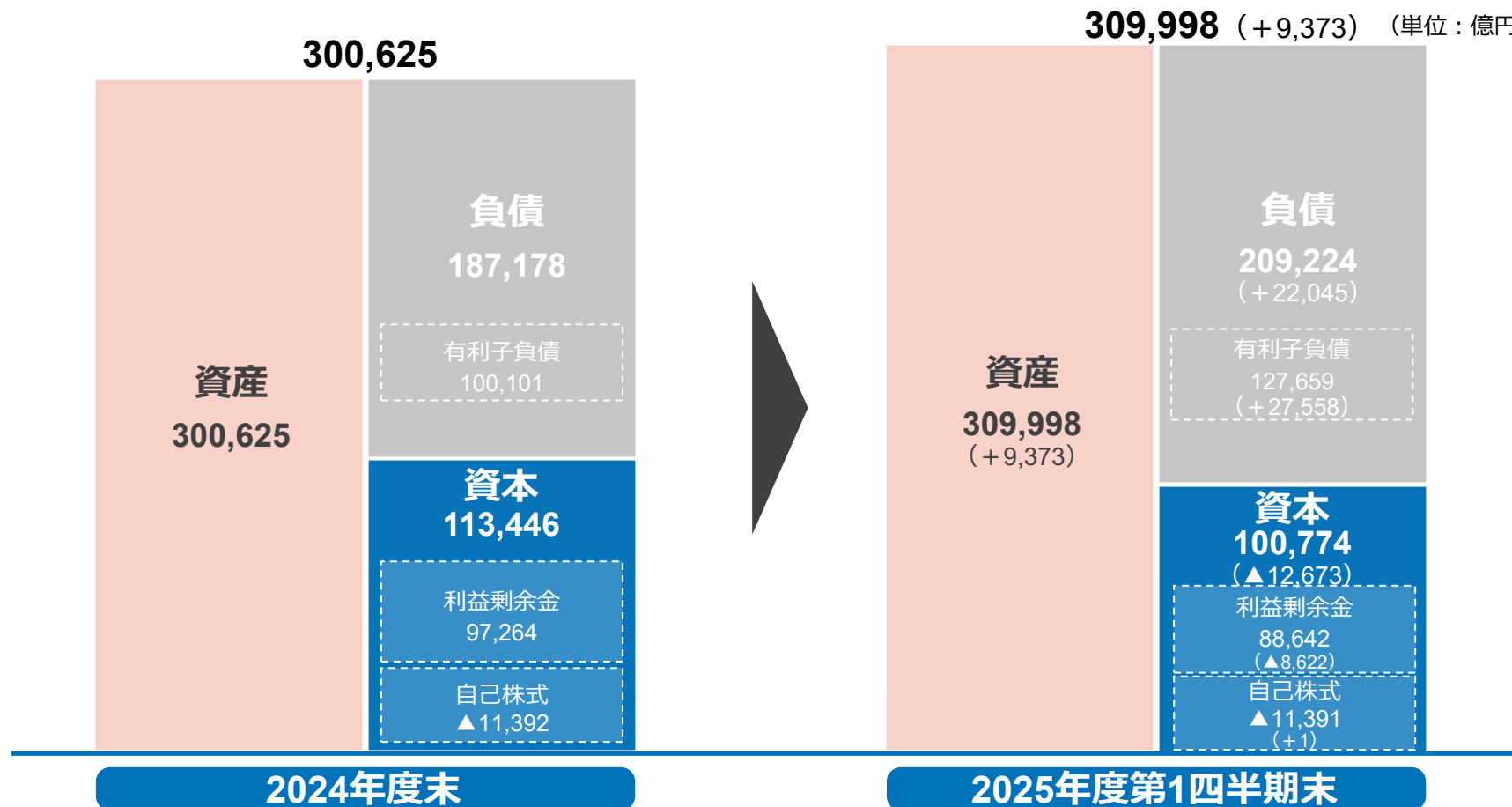
- ・三浦半島4市1町と災害に強い地域づくりの推進に関する防災連携協定を締結(NTT東日本・5月)
- ・大規模災害時の迅速な被災地支援に向け通信事業者間の協力体制を強化(NTT、NTT東、NTT西、NTTドコモ、NTTドコモビジネス・7月)

お客さま体験（CX）を 重視したサービスの強化

- ・高速・高品質なビジネス向け光回線「フレッツ 光クロス Biz」を提供開始(NTT東西・6月)
- ・特殊詐欺犯罪の防止に向けた国際電話の利用休止の一元受付等の取り組みの開始(NTT東西・6月)

Appendix

連結貸借対照表の状況



は対前年比増減

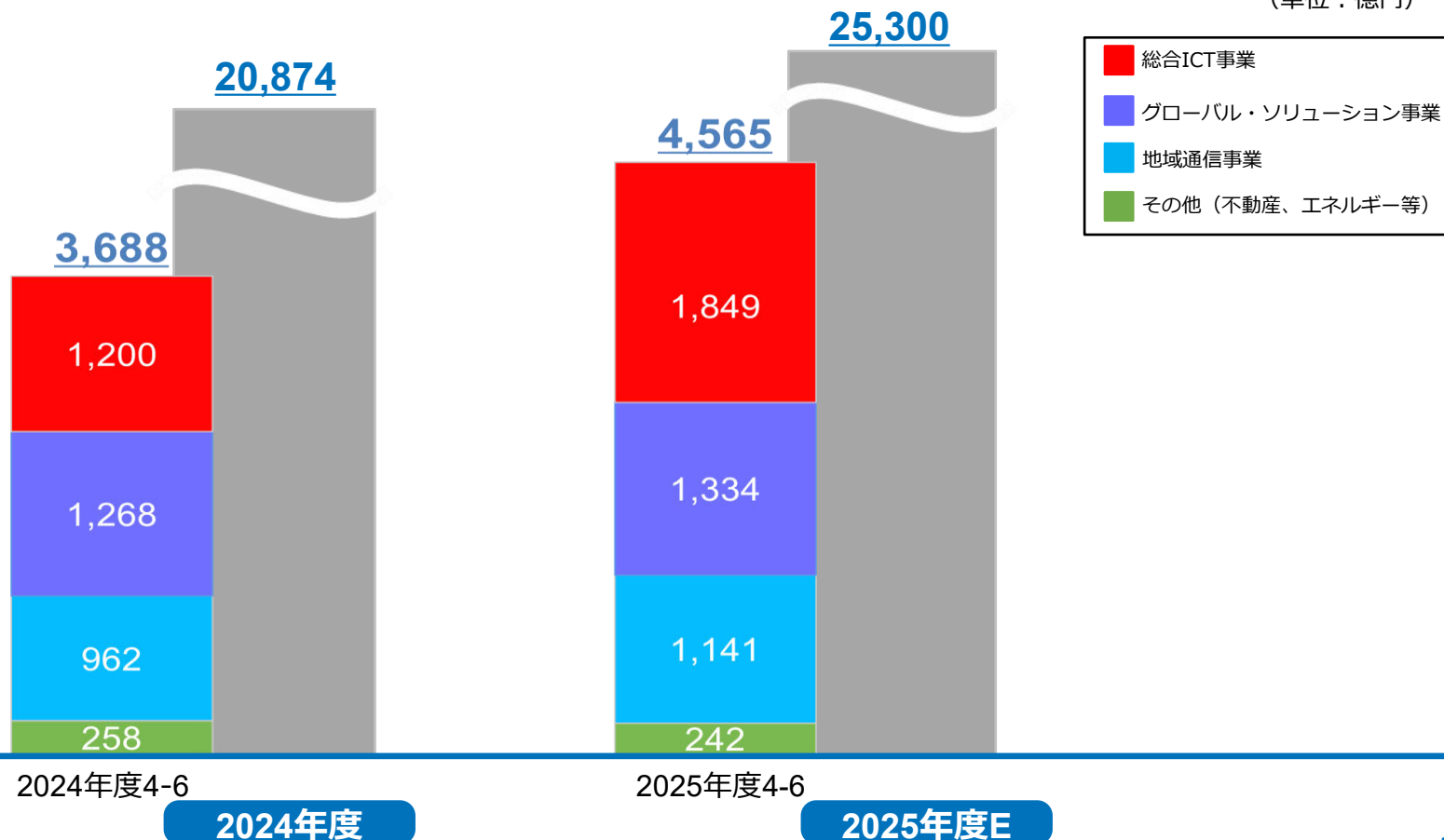
(單位：億元)



設備投資額の状況



(単位：億円)



Innovating a Sustainable Future for People and Planet

